

■ 我慢 ■

全米オープンテニスの女子シングルス決勝で大坂なおみが優勝した。日本人初のグランドスラム（4大会）シングルス制覇という快挙である。この夜、感情を高ぶらせていくセリーナ・ウィリアムズとは対照的に、大坂は終始落ちつき集中していた。4大会を23回制覇した地元アメリカのセリーナは自滅し、大坂は新女王にふさわしい品格を見せた。

S・ウィリアムズは第1セットを奪われて明らかに苛立っていた。第2セット、コーチングを受けたとして警告されたことに怒り、ミスをしてラケットを叩き付けて破壊し、さらに審判を侮辱した。ペナルティーとしてポイントだけでなくゲームも失う。「レジェンド」としてあるまじき振る舞いだった。

物事が思うようにならないときに、メンタリティは顕著に表れる。実は今大会、大坂なおみにもラケットをコートに叩き付けようとした場面があった。しかし、彼女は思いとどまる。以前は感情をコントロールできない弱さが目立つことが少なくなかったが、精神的な成長が彼女を我慢させた。

これまで大坂は、プレッシャーに押しつぶされそうになると、コートで泣き出すこともあった。昨年12月からドイツ人のサーシャ・バインがコーチに就いた。彼は彼女の前にしゃがみ視線を合わせて、逆境の時こそ自分を信じて我慢することの大切さを粘り強く教え続けた。「なおみ、きみならできる」と。

勝負を焦って無理に強打で攻めることなく、コースを丁寧に突く。ラリーが長引いても、冷静にじわじわと重圧をかけていくことで、相手の方がしびれを切らしミスをする。彼女のプレーから、我慢することがどれだけ大切かを改めて学んだ。

表彰式になってもS・ウィリアムズに味方する観客のブーイングが鳴り止まないままだった。異様な雰囲気の中で大坂は語った。「みんな彼女を応援していたのを知っている。こんな終わり方ですみません」「ただ試合を見てくれて本当にありがとう」。スピーチが始まると観客は言葉を失い、我に返り大きな拍手を送り始めた。人柄がそうさせた。

英国モデルのナオミ・キャンベルに代表されるように、外国人の女性にも「ナオミ」という名前をよく耳にする。日系人の名前が広がったのだと思っていたら、「NAOMI」はヘブライ語で、聖書にも登場する女性の名前だと、新聞のコラムにあった。その意味は「喜び」という。

若干20歳。大坂は世界の「NAOMI」になった。精神的にも大人の階段を登った彼女の、世界の頂点への挑戦はこれからまだまだ続く。全米では見ることでできなかった表彰式での「喜び」の姿を楽しみにしたい。